

令和4年度

久米島町教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書

令和5年10月

久米島町教育委員会

ま え が き

久米島町教育委員会では、子ども達が「島に誇り」・「心に夢」を持ち、「創造性・国際性に富む人材の育成と生涯学習の振興」を目指すことができるよう教育振興に努めております。

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規程に基づき、久米島町教育委員会の活動状況及び教育施策の実施状況についての点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表するものです。

なお、点検・評価に当たっては、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、助言及び評価を求めることとしました。

外部評価委員名簿

* 令和5年9月14日現在

役 職	氏 名
元久米島PTA連合会	吉原 昌司
現久米島西中学校評議員	國吉 佳代
元久米島町役場職員	佐久田 等

I はじめに

1 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。このため、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要性があります。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正において、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められています。

町教育委員会は、この報告書を議会に提出するとともに、ホームページ等で公表し、町民への説明・責任を果たし、町民に信頼される教育行政を推進してまいります。

2 対象事業と点検・評価の方法

(1) 久米島町教育委員会が策定した「令和4年度久米島町教育委員会事務事業」において、主要な事業の取り組み並びに達成状況について点検・評価を行いました。

(2) 評価方法

教育施策の各項目について、達成度により内部（自己）評価しました。

・達成度（ A ～ D ）

A ……十分達成できた

B ……概ね達成できた

C ……やや不十分である

D ……不十分である

— ……新型コロナウイルス感染症の影響による未実施

※「成果と課題及び対応」行頭の記号は○＝成果、●＝課題、☆＝課題への対応、△＝新型コロナウイルスの影響による中止。

(3) 外部評価

点検・評価にあたり、点検評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する3名の方を外部評価委員に委嘱し、ご意見・ご助言をいただきました。

(4) 評価基準日

令和5年3月31日

(5) 評価実施日

令和5年9月14日

令和4年度 久米島町教育主要施策

久米島町教育委員会

教育主要施策の策定にあたっては、国や県の教育改革の動向、県の重点施策の基本方針等を踏まえ、「久米島町教育主要施策（令和2年度～令和6年度）」を定めました。

教育の目標

- ◆ 自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ、幼児児童生徒を育成する。
- ◆ 平和で安らぎと活力のある社会の形成者として、郷土文化の継承・発展に寄与し、国際社会・情報社会等で活躍する心身ともに健全な町民を育成する。
- ◆ 家庭・学校・地域社会の相互の連携及び協力のもとに、時代の変化に対応し得る教育の方法を追究し、生涯学習社会の実現を図る。

目標達成のための主要施策

1. 生涯学習の推進

生涯学習の推進にあたっては、町民一人一人が学習の各時期において生きがいのある人生を過ごすことができるよう、学習形態と施設の整備拡充や利用の促進を図り、諸施策を展開する。最近の調査によると国民の3分の2以上が「生涯学習」に関心を示しており、人々がいつでも自由に学習機会を選択し、学習活動を楽しもう・生きがいを見いだそうという学習意欲が高まりつつあるので、的確にニーズを把握し環境を整備するとともに拡充を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
1	各種学級、講座等の充実	三線教室、手話教室、水泳教室、久米島紬体験、ホテル観察会等の各種教室を実施する。	講座等開設数 6講座以上	<p>○三線教室（18名、5コマ）・手話教室（17名、8コマ）・LINE教室（2名）・ホテル観察会（30名）を実施した。</p> <p>○講座を実施することで、新たなニーズを確認することができた。</p> <p>△水泳教室、久米島紬体験会はコロナウィルス感染症の影響により中止した。</p> <p>●新規講座の募集を行ったが参加者が少なかった。</p> <p>☆教室の内容を見直し実施方法等を検討し、町民のニーズに応じた講座・教室が実施できるように関係者と調整を行っていく。</p>	B	B
2	町立図書館運営事業	町民からの情報提供による図書資料及び電子書籍の導入、広報誌やホームページ等を活用した情報発信、外部団体と連携した読書イベントの開催	利用登録者数： 1,300人 電子図書館貸出冊数：650冊	<p>○令和4年度利用者数は3,997人、利用登録者数は1,542人、電子図書館は736冊と目標を上回った。</p> <p>○令和4年度に実施予定の読書イベントを全て行うことができた。</p> <p>●図書の情報収集、図書館のイベント情報など利用者増加に向けた取り組みが少なかった。</p> <p>☆図書館利用につながる図書調達や新たな読書イベントの開催とともに、それらの情報をLINE等で積極的に発信していきたい。</p>	A	A

【外部評価委員の意見】

- 各種学級・講座等の開設は例年から継続されている講座が多く整理が必要だと思う。今後の事業実施に向けて、町民のニーズに応じた講座等が開設されるよう検討を行い、周知方法について工夫する必要がある。
- 電子図書の実証実験後の成果と課題に対して、町の単独事業として継続しており、利用者数・登録者数・電子図書貸出冊数も目標を上回っているので外部評価はA評価とする。電子書籍等も充実できるように継続して取り組んでほしい。

2. 幼児教育・学校教育の充実

学校教育においては、幼児児童生徒一人一人に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力の育成及び豊かな心、健やかな体の育成など「生きる力」を育む学習活動を教育活動全体で充実させることが重要であり、自らの個性を生かし社会の変化に主体的に対応できる能力や創造性の基礎を培う育成を目指します。

このため、学校においては、教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実させるとともに、目的意識を高める指導方法等の改善・充実を図ることで幼児児童生徒に自己肯定感と向上心をはぐくむなど、適切な教育課程の編成・実施に努めます。

また、町教育委員会においては各学校が創意工夫した特色ある教育課程を編成・実施できるよう各学校の実情に応じた適切な支援を実施します。

I. 幼稚園

○幼児教育の充実

幼児教育は、園生活全体を通して豊かな心情・積極的な意欲・健全な生活習慣、態度を育て、調和のとれた人格形成の基礎を培うものです。幼児に適切な環境を与え、遊びを中心とした総合的な指導を通して、幼児の健全な発育を促進しながら、保護者及び小学校との連携を積極的に推進します。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
3	幼児教育	幼児教育の充実		○新たな施策として、昼食の配食を実施することができ、子育て世代のニーズに応えるとともに、教育時間を確保することで、教育面の質の向上を図ることができた。 ○国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、保護者負担軽減のため、7月以降の給食費を無償化した。	A	A

4		保護者の子育て支援として幼稚園の教育時間修了後に、保育を希望する園児を対象に、仲里・清水幼稚園で預かり保育を実施している。	<p>○両園に預かり保育指導員を二人配置することができ希望するすべての園児を受け入れた。</p> <p>○預かり保育指導員会議内で、指導員同士相談し共有しながら預かり保育を実施できた。</p> <p>○両園へ預かり保育ヘルパーの人員配置ができた。</p> <p>●利用時間超過が度々みられ、職員の勤務時間に影響している。</p> <p>●幼稚園教諭との報連相が行き届いてない事がある。</p> <p>☆利用時間を周知徹底していく。</p> <p>☆共有シートを作成し両園へ試験的に配布し、必要事項の共有として活用する。</p>	A	A
5		ヘルパーを必要とする園児への安全面等を配慮し、幼稚園にヘルパー配置を実施している。	<p>○両園へ、ヘルパーの人員の配置ができた。</p> <p>●年々ヘルパーを希望とする園児が増加傾向にあるため、人員の確保が課題である。</p> <p>☆人員確保を図るため、応募方法等を工夫する。</p>	A	A

【外部評価委員の意見】

○預かり保育については、希望するすべての園児を受け入れや配食の実施等、年々改善されてきているように見える。また、学校の夏休み期間も配食を実施し預かり保育を行っており、幼児教育に関しては充実してきているように思える。

Ⅱ. 小・中学校

○学習指導の工夫・改善・充実

学校においては、児童生徒一人一人の実態等を十分に把握し、個に応じた指導体制や指導方法、評価方法の工夫・改善を図り、「沖縄県学力向上推進5カ年プラン・プロジェクトⅡ」や『「問い」が生まれる授業サポートガイド』を活用して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や指導方法の確立に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
6	学力調査	【小学校】 ①全国学力学習状況調査 ②県到達度調査	①小学校全国平均以上 ②小学校県差+1.5以上	【小学校】 ○全国学力学習状況調査結果 ※全国水準レベル(+5.0～-5.0内) (小6) 【国語】64.0%(全国差-1.3) 【算数】61.0%(全国差-2.2) 【理科】63.0%(全国差-1.3) 【総合】62.7%(全国差-1.3) ○県到達度調査 ※県水準レベル(+5.0～-5.0内) (小5) 【国語】70.5%(県差+1.7) 【算数】46.1%(県差-2.2) 【総合】58.3%(県差-0.3) (小6) 【国語】66.1%(県差+0.3) 【算数】58.2%(県差+0.7) 【総合】62.2%(県差+0.4) ○各種調査において国語は全国、県と比較しても数値が高い。 ●学校間差や学年間差が見られるため、各学校や学年の実態に応じた対応が必要である。 ☆各種調査の結果を分析し、低学年からの学習内容のつながりを意識した指導を行う。併せて主体的で協働的な学びに向けて授業改善を推進していく。	A	A
		【中学校】 ①全国学力学習状況調査 ②県到達度調査	①中学校全国-2.5以内 ②中学校県差+2.0以上。	【中学校】 ○全国学力学習状況調査 ※全国水準レベル(+5.0～-5.0内) (中3) 【国語】64.0%(全国差-5.0) 【数学】35.0%(全国差-16.4) 【理科】40.0%(全国差-9.3) 【総合】46.3%(全国差-10.2) ○県到達度調査 ※県水準レベル(+5.0～-5.0内) (中1) 【国語】61.8%(県差+6.9) 【数学】42.1%(県差-2.3) 【英語】42.0%(県差0.0) 【総合】48.6%(県差+1.5) (中2) 【国語】57.7%(県差+7.8) 【数学】38.8%(県差-4.5)	B	B

				<p>【英語】42.8%（県差-7.5） 【総合】46.4%（県差-1.4）</p> <p>●各種調査の結果において中学校で全国差・県差が比較的大きい。 ●英語において中学1年よりも中学2年の方が県差が大きい。</p> <p>☆中学校期におけるテスト改善について支援していく。 ☆中高教科会を利用した授業改善・補習指導方法について助言していく。</p>		
7	学習支援員の配置	児童生徒一人一人に基礎学力を身につけさせることを目的に、小中学校に学習支援員を配置する。		<p>○小学校3名、中学校4名の学習支援員を配置したことで学習内容が未定着な児童生徒に対してきめ細やかな学習支援を行うことができ、学習に対する意欲を高めることができた。</p> <p>●担任と支援員との事前ミーティングの時間確保が必要である。</p> <p>☆オリエンテーション等でミーティングの時間確保等について確認する。</p>	B	A
8	検定支援	漢字検定（年3回実施のうち1回）の受検料を補助 *小学校2年生以上（中学校においては特別支援学級在籍生徒）が対象		<p>○漢字検定 受験者総数 351名 合格者 235名 合格率 67% 受験率 96%</p> <p>※2年～6年在籍数 365名</p> <p>9級（小学2年修了程度） 合格者数 61名 8級（小学3年修了程度） 合格者数 47名 7級（小学4年修了程度） 合格者数 55名 6級（小学5年修了程度） 合格者数 21名 5級（小学6年修了程度） 合格者数 39名 4級（中学在学程度） 合格者数 3名 3級（中学卒業程度） 合格者数 3名</p> <p>○在学年以上の級への受検・合格率 256名中 192名合格（75%）</p>	A	A

9		英語検定（年3回実施、3回）の受験料補助 *中学生全員対象	英語検定3級以上相当の英語力を有する中学3年生の割合 基準値 22.4% (R2) 目標値 37.4% (R7)	<p>○英語検定 受験者総数 134名 合格者 62名 合格率 46% 受験率 59%</p> <p>※R4 中学校在籍生徒数 226名</p> <p>5級（中学初級程度） 合格者数 12名（合格率 71%） 4級（中学中級程度） 合格者数 23名（合格率 58%） 3級（中学卒業程度） 合格者数 20名（合格率 42%） 準2級（高校中級程度） 合格者数 5名（合格率 21%） 2級（高校卒業程度） 合格者数 2名（合格率 40%）</p> <p>○在学年以上の級の受検者数 合格者数 52名（合格率 39%）</p> <p>○英検3級以上相当の英語力を有する中学3年生の割合 15% （中学3年生 73名中 11名）</p> <p>●年3回実施、中学生全員を対象としているが、受検者数は伸び悩んでいる。</p> <p>☆学力向上対策の一環として位置づけられた事業でもあることから、全生徒が検定にチャレンジできるような体制をつくる。</p>	B	B
10	地域教育資源活用支援	地域人材や地域環境等を活用した教育活動への支援	地域人材活用支援事業で年間210時間を活用	<p>○210時間の内、180時間活用することができた。</p> <p>○地域人材活用のための講師謝礼金があることで学習と実生活をつなぎ合わせることができ、地域への愛着と学習する意欲を高めることができた。</p> <p>●地域人材を活用した外国語の授業の講師謝礼金を90時間分（中学校）準備したが、活用を上手く図れなかった。</p> <p>☆次年度は活用の幅を小学校へも広げて実施していく。島内在住の身近な外国人を効果的に活用していく。</p>	B	B

【外部評価委員の意見】

- 学力調査について、小学校のテスト結果はよくなっていて、先生方もしっかり支援できている結果だと思う。各教科の不得意分野や傾向を把握し対策・支援を行ってほしい。また、家庭（保護者）の支援について取組が必要だと思う。
- 学習支援員配置について、学校の要望や必要に応じてしっかり配置しており十分評価できるので外部評価はA評価とする。しかし、保護者側が支援員の配置によりどのように受け取っているか把握する必要がある。
- 検定支援について、受験をうながすだけにすると、勉強もしないで受ける人もいるのでその点には気をつけてほしい。
- 地域教育資源活用支援について、学校の要望に添って実施できているので継続してほしい。また、外国語も大事だが地域の言葉（方言）の活用も考えてほしい。

○道徳・人権教育の充実

児童生徒一人一人に豊かな心を育み、自他の生命を尊重する心を基盤に、美しいものに感動するなどの豊かな情操、善悪の判断などの規範意識及び公共の精神、健康・安全、規則正しい生活などの基本的な生活習慣を育むとともに、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を培う。

このため、学校においては、児童生徒の発達段階に応じて、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を培う道徳教育を、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて計画的・発展的に指導を推進します。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
11	道徳・人権教育	①道徳教育の指導の充実 ②全教育活動を通して道徳性や人権意識を身につけさせる。		○全学校の全学級において年間1回以上の公開授業をするように周知した。 ○新型コロナウイルス感染症の「偏見・差別・いじめ」に関する資料を配付し「特別な教科道徳」で実践させた。 ●毎月のいじめアンケートが形骸化しないような取組の充実を図る必要がある。 ☆更なる道徳教育の充実を図るために、町内各学校で行っている道徳の授業等のよい取り組み事例を他校へ紹介する。	B	B

				<p>☆新型コロナウイルス関連における「偏見・差別・いじめ」等に関する資料を積極的に発信する。</p> <p>☆一人一台端末の良さを生かした、いじめアンケートの実施を推奨する。</p>		
--	--	--	--	--	--	--

○健やかな心と体を育む教育の充実

体育・スポーツ活動に関する指導については、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、豊かなスポーツライフの基礎を培う観点に立ち、学習指導の工夫・改善を図る。併せて、運動部活動の活性化や適正化を促進し、発達段階に応じた基礎的な体力の向上に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
12	体力向上・健康保持増進	全国体力・運動能力運動習慣等調査の実施	<p>全国体力・運動能力運動習慣等調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校全国平均以上 ・中学校-2.5 以内 	<p>全国体力・運動能力運動習慣等調査</p> <p>○小学校 全国差 (総合+3.0)</p> <p>【全国以上種目】 握力 長座体前屈 反復横跳び 立ち幅跳び ボール投げ</p> <p>【全国以下種目】 上体起こし シャトルラン 50m走</p> <p>●中学校 全国差 (総合-2.8)</p> <p>【全国以上種目】 握力 50m走 立ち幅跳び</p> <p>【全国以下種目】 上体起こし 長座体前屈 反復横跳び シャトルラン</p> <p>○日常活動で体力の向上を図るために、先進的な取組を行っている学校を参考に各学校が取組を充実させていた。</p> <p>●中学校女子の結果が若干の落ち込みが見られる。</p>	B	B

				<p>☆各学校において、日常的な体力向上や運動能力の向上のために「一校一運動」の更なる充実を図る。</p> <p>☆体育専科を活用した体育授業作りへの指導・支援を行う。</p>		
13		<p>全児童生徒に対し健康診断を実施し、健康管理及び対策に努め、欠席者・感染者情報システムを活用し管理を行う。</p>		<p>○小中学校のう歯（むし歯）なしが増えている。</p> <p>○幼・小・中ともに健康診断、歯科検診未受診者等は公立病院で、全員受診できた。</p> <p>●欠席者・感染症情報システムの活用にバラツキがある。</p> <p>☆システムの活用を周知徹底し利用を促す。</p>	A	A

【外部評価委員の意見】

○むし歯なしが増えてきている。これまでの取り組みの成果が着実に出てきているので評価できる。

○生徒指導の充実

生徒指導は、一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度の育成と、個々の児童生徒の自己指導能力の育成を目指し、教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を活かしていくことができるような生徒指導の充実を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
14	スクールカウンセラー等の配置	<p>県や町委嘱のスクールカウンセラーを各学校へ派遣し、不登校や問題等がある児童生徒への相談支援を行う。</p>	<p>年間配置日数 町：90日</p>	<p>○県スクールカウンセラーを小中学校に1日6時間（1校3時間）、年間11回配置し、児童生徒や教職員、保護者等と必要なカウンセリングを行った。その結果を学校などにフィードバックすることで、児童生徒の相互理解と支援方法の改善につなげた。</p> <p>○町スクールカウンセラーは拠点校に1日4時間、年間82日配置し、学校の要請に応じて必要なカウンセリングを行った。</p>	B	A

			<p>●県スクールカウンセラーは離島ゆえに来島回数に制限があり、児童生徒数の多い学校からの相談に十分に対応できていない。</p> <p>☆学校と連携し、計画的にスクールカウンセラーを配置することで、効果的に支援が出来るようにする。</p>		
15	児童・生徒の問題行動の把握、関係機関と連携①	<p>①毎月の問題行動等調査</p> <p>②全国学力学習状況調査（児童生徒質問紙）</p> <p>③県児童生徒質問紙調査</p>	<p>○毎月の問題行動等調査</p> <p>※不登校児童生徒数（年間30日以上欠席）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 R04：7名(前年度比 +5名) ・中学校 R04：17前年度比 +1名) <p>●小学校において不登校児童数が増加し、中学校においては大きな変化が見られない。</p> <p>☆未然防止に努め丁寧な初期対応が行えるように生徒指導担当者研修会に情報を提供していく。</p> <p>○全国学力学習状況調査児童生徒質問紙【対象：小6年、中3年】</p> <p>Q:自分にはよいところがありますか。</p> <p>小 R04 82.4%(+7.4%) 中 R04 67.2%(-5%)</p> <p>Q:学校に行くのは楽しいですか。</p> <p>小 R04 82.4%(+3.6%) 中 R04 74.7%(+2.5%)</p> <p>○前年度と比較すると肯定的な意見も増加が見られた。</p> <p>●中学校においては全国と比較した際に肯定的な意見が少ない。</p> <p>○県児童生徒質問紙調査【対象：小4～6年、中1～3年】</p>	B	B

			<p>Q:自分にはよいところがありますか。 小 R04、84.8%(+4.1%) 中 R04、73.7%(+5.5%) Q:学校に行くのは楽しいですか。 小 R04、84.0%(-7%) 中 R04、74.9%(+8.7%)</p> <p>○前年度と比較すると肯定的な意見も増加が見られた。特に中学校の生徒の肯定的な意見が増加傾向にある。</p> <p>●肯定的な意見が増えたとはいえ、県と比較すると全体的に低い傾向にある。</p> <p>☆引き続き各学校において魅力的な学校作りに取り組んでもらうことと併せ、自己有用感を感じることでできる取組、声かけ等を継続して行っていく。</p>		
16	児童・生徒の問題行動の把握、関係機関と連携②	<p>①町教職員研修会(悉皆) ②小中アシスト相談員 ③子供居場所施設準備</p>	<p>○町教職員研修会(悉皆) ※子供との関わり研修 R04 町教職員参加者 100名</p> <p>○若手の教職員が多い本町において、町内教職員が一堂に会しての研修だったので、町全体の教育(指導)の方向性を共有するよい機会となった。</p> <p>○小中アシスト相談員 (実人数:児童生徒 24名、教員 34名 他 36名 総合計 94名) のべ相談・支援員回数(児童生徒のみ 50名 保護者ともに 93名 保護者のみ 204名 教員 277名 他 31名 総計 655名)</p> <p>○児童生徒の登校復帰できたケースは多くないが、年間を通して児童生徒に寄り添い学校と連携を図りながら丁寧に支援することができた。</p>	B	B

			<p>●学校以外で不登校傾向のある児童生徒を支援できる場所が少ない。</p> <p>☆令和5年に開設される子供居場所「よんなあ教室」と連携し、児童生徒の状況を丁寧に把握しながら社会的自立を前提とした登校復帰を目指していく。</p> <p>☆学校においては不登校の未然防止のために「魅力ある学校づくり」を目指していけるように指導支援していく。</p>		
--	--	--	--	--	--

【外部評価委員の意見】

○スクールカウンセラー等の配置について、県スクールカウンセラー配置時間も増加し、町スクールカウンセラーも学校の要望に応じて活用できているので外部評価はA評価とする。また、学校への登校だけではなく、社会復帰に向けた取り組みもこれから必要な支援になると思う。

○キャリア教育の充実

学校教育においては、児童生徒に夢や希望を育み、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応し、主体的に生きることができる自立した社会人・職業人の育成を図る必要がある。このため、教育活動全体を通して児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、望ましい勤労観・職業観の育成に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
17	キャリア教育 (職場体験学習)	①ジョブシャドウイング学習(小) 職場体験(中) ②職業人講話 ③職業体験型イベント ※わくわくワーク		<p>○コロナ渦であったが小学生のジョブシャドウイング学習と中学生の職場体験が町内事業所のおかげで実施することができた。</p> <p>○久米島町内が「ジョブ」連携協議会において、児童生徒の職場見学や職場体験を支援していただき、充実した活動ができている。</p> <p>●職場体験後の振り返り、取組をより充実させていく必要がある。</p> <p>☆ジョブシャドウイング学習や職場体験を体験だけに終わらせるのではなく、事前事後の取組を充実するように助言支援する。</p> <p>☆キャリア教育の取組で島に誇りを持ち、心に夢を持たせ、児童生徒の夢実現を目指していく。</p>	A	A

【外部評価委員の意見】

○キャリア教育について、コロナ渦の厳しいなかで実施できているのは評価できる。島内・島外の事業者も協力し町全体で実施できているので継続的に取り組んでほしい。

○特別活動の充実

児童生徒が充実した学校生活を送り、学級や学校での集団活動を通してより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育むとともに個性の伸長に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
18	島外派遣費補助	課外活動として島外で開催される中体連・中文連の各種大会・コンクール等へ参加する生徒に対し、派遣にかかる渡航費と宿泊費の一部を補助	派遣によって生徒の視野が広がった等、派遣に対する肯定的回答率（80%以上）	○年 58 回 539 名（延べ人数）に対し、大会派遣支援の補助金を交付した。 ⇒年間の一人当たりの派遣回数としては「複数回（2 回以上）」の割合が 71%を占めており、各種大会等へ参加する機会を確保できた ○保護者アンケートで、派遣に対する肯定的回答を 82%得た。 ●補助金交付対象となる大会・補助基準について明確化し、周知する必要がある。 ☆補助金交付ガイドラインを作成する。	A	A

○特別支援教育の充実

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善又は克服するための適切な指導や必要な支援を行うものです。学校においては、校内支援委員会の設置や特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を構築し児童生徒の状態、特性や学級の実態に即した教育課程を編成するなど特別支援学級の教育課程の充実を図る組織的な取り組みを推進します。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
19	教育支援委員会の設置	特別な教育的支援を必要とする幼児・児童及び生徒のより良い就学支援を行うための調査・審議を行う		<p>○支援委員会を3回開催し医師や臨床心理士の知見を基に小学校18名、中学校2名、幼稚園4名の審議を行い、本人、保護者の意見を尊重した就学先を決定することができた。</p> <p>●特別な支援を要する幼児・児童生徒が年々増加していることから、保育所・園から幼稚園、幼稚園から小学校、中学校間で情報共有し、子どもの成長に応じた適切な支援が受けられるよう連携を図る必要がある。</p> <p>☆福祉課と連携し、5歳児健診の結果に基づき、適切な支援につなげる。</p>	B	A
20	特別支援教育支援員の配置	特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の教育活動等を支援するため、要請に応じて小中学校に特別支援教育支援員を配置する。	特別支援教育支援員対応の児童生徒保護者満足度 89%	<p>○小学校11名、中学校3名の支援員を配置し、学習や生活面において特別な教育支援を要する児童生徒に支援を行うことができた。</p> <p>○必要な支援内容は児童生徒によって異なるため、特別支援教育支援員による連絡協議会を定期的実施することで、現場の課題や要望に対して解決に向けた取り組みができた。</p> <p>●町内では支援員の人材確保が年々難しくなっており、学校現場からの要望に十分に答えられていない。</p> <p>☆人員確保を図るため、早期に公募を行う。</p>	B	A

【外部評価委員の意見】

○要望に応じて支援できているのでA評価とする。また、支援員の研修やサポート体制も教職員と同様にもうけられているので継続して行ってほしい。

○食育の推進

学校教育活動全体を通じた食育の推進に努め、家庭や地域関係機関と連携し、児童生徒に様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得させ、健全な食生活を実践することができる能力を育成していく。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
21	学校給食センター運営 (学校給食の充実)	児童・生徒の健やかな成長を育むため、安心、安全な学校給食を提供している。		<p>○学校給食センター調理員の新型コロナ「陽性」により、調理場内消毒清掃作業のため学校給食を停止したが、学級閉鎖や学校閉鎖等に対応しつつ、年間を通して安定的に学校給食が提供できた。</p> <p>○7月以降、国の新型コロナ感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、児童生徒492名の学校給食費を保護者負担軽減のため無償化した。</p> <p>○学校給食と配食サービス等の複合型施設整備及び運営事業として、民間事業者とサウンディングが出来、事業実施へ向け町の実施方針、公募要件の取りまとめが出来た。</p> <p>●県内及び町で初めての事業手法のため、手探りの状況。</p> <p>☆サウンディング事業者との対話、及び沖縄公庫等、町PFIアドバイザーの助言も踏まえ、公募・事業実施へ取り組んでいく。</p>	B	B
22	栄養士と連携した食育	各学校児童生徒への食に関する指導・試食会等も行い、健康増進や、生活習慣病の予防することを理解させ、町の子ども生活改善健康プロジェクトを推進する。	食に関する指導 (食育授業等) 及び給食試食会 32回	<p>○各小中学校からの要望により、小学校23件、中学校1件の食育授業を実施した。給食試食会、災害時想定給食も再開し、久米島町給食の日や学校給食週間において、地場産物を活用した給食献立を提供した。</p> <p>●全学級への食育指導は難しい。</p> <p>☆クラスを限定しての実施計画や指導内容等を検討する。</p>	B	B

○国際理解・外国語教育の推進

国際化の急速な発展に伴い、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成することが求められています。学校においては小学校段階から国際理解教育の充実を図り、コミュニケーションの手段としての英語に慣れ親しませ、小・中学校の学びの連続性を踏まえた英語によるコミュニケーション能力の育成を一層充実させ、これからの社会で羽ばたけるよう育成を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
23	英語教育の充実	①外国語等に関するアンケートの実施 ②小中英語主任会実施		<p>①外国語等に関するアンケートの実施</p> <p>Q:英語の授業は楽しいですか。 小 R04 90% 中 R04 64%</p> <p>Q:英語が聞ける・話せる・書ける・できるようになりたいですか。 小 R04 89.0% 中 R04 89.0%</p> <p>○小中ともに英語ができるようになりたいという児童生徒が多い。</p> <p>●「英語が楽しい」の質問に対して小学校と中学校に差が見られる。</p> <p>☆小中の「英語ができるようになりたい」という気持ちを大事にして教職員の授業力向上を目指した研修会等の充実を図っていく。</p> <p>②小中英語主任会実施</p> <p>○年間5回開催し、その内の2回は小中相互の授業参観及び授業研究会、1回は島外より主事を要請しての研修会を行った。</p> <p>○小中のつなぎを意識した取組がなされるようになった。</p> <p>●小学校児童の英語に対する興味を上手く中学校に繋げることが不十分である。</p> <p>☆教師の授業力向上を目指した取組及び連携の充実を図る。</p>	B	B

【外部評価委員の意見】

○小学校教諭の英語教育について負担がかかりすぎないように、英語専科を効果的に活用し対応を行ってほしい。また、小学校は楽しく取り組んでいるので継続的に中学校でも楽しく取り組めるように支援する必要がある。

○海外ホームステイについて、海外ホームステイを見直し、本島・島内ホームステイの参加者人数を増やすなど、これまで以上に多くの児童・生徒が英語に関わる機会を提供できるように検討してほしい。

○情報教育の充実

高度情報通信ネットワーク社会においては、児童生徒がコンピュータやインターネットを活用し主体的に対応できる「情報活用能力」の育成と情報モラルに関する指導の充実が求められています。

このため、学校においては ICT の活用や情報モラル指導のための校内研修を充実し、児童生徒に情報を適切に活用する基礎的な能力等を系統的に育成するため、情報教育の一層の改善・充実を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
24	ICT 機器の整備 充実・活用支援	持ち帰り学習に向けた整備（規程、インナーバック・充電器、オフラインで活用できる AI 型ドリル）		○学校のニーズに応じた校内研修会が 12 件できた。 ○持ち帰り学習に向けた規程の整備、周辺機器、オフラインで活用できる AI 型ドリルの整備を行った。 ●持ち帰りが可能な環境を整備したが、実際に持ち帰り学習を行っている学校が少ない。 ☆持ち帰り学習がスムーズに行えるよう、課題等を把握し ICT 支援員を活用してサポートする。	B	B
25	GIGA スクール に向けた取組	GIGA スクール運営支援センターの開設		○GIGA スクール運営支援センターを開設し、ヘルプデスク（コールセンター）と、ICT 支援員を配置した。 ○ヘルプデスクへの問い合わせ件数：107 件	B	B

				<p>○ICT 支援員学校訪問回数：各学校 13 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運営支援センターの効果的な活用を図るため、サポート体制等を再度周知する必要がある。 ●端末活用が進む中、情報を正しく安全に利用するための、情報モラルや著作権についての研修が必要である。 ●学校間、先生間で ICT 活用能力に差がある。 <p>☆情報担当者会議を行い、学校間での情報を共有する。 ☆ICT 支援員を活用し、サポートしてもらい体制を構築する。 ☆校長会、情報担当者会議で周知を行う。</p>		
--	--	--	--	---	--	--

【外部評価委員の意見】

○学校間や教師間によって活用に差があまり出ないように、ICT機器の整備充実及び活動支援等の環境整備はできている。研修や支援センターなどの支援策を活用し取り組みできるように進めてほしい。

○へき地教育の充実

へき地教育では、へき地の特性である「へき地性」「小規模性」「複式形態」を生かし、地域に根ざした創意ある教育課程を編成・実施し、主体的で創造性豊かな児童生徒育成に取り組む必要がある。

このため、へき地の学校においては、少人数・複式学級における学習指導の深化・充実を図るとともに、合同学習、集合学習、交流学习を積極的に推進し児童生徒の自主性・社会性を育みます。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
26	修学旅行費補助	へき地学校の修学旅行代金に対する支援を行い保		○小学校、中学校ともに目標達成した。	B	B

		<p>護者負担軽減を図る。また、学校への旅行地選定や計画策定に対する支援を行うことにより円滑な修学旅行実施を推進する。</p>		<p>●補助対象経費に係る支援は十分行えている現状ではあるが、小規模校が実施した場合島内での格差が大きくなる。</p> <p>☆今後は上限額の整理や町単独での支援の検討も必要である。</p>		
--	--	---	--	---	--	--

3. 国際社会・情報化社会等への対応

国際化・情報化の時代に対応する先見性と国際性に富んだ人材の育成を図るため、広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力の育成を図る教育を推進します。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
27	海外ホームステイ派遣事業	<p>沖縄県の次世代を担う若者の語学力の向上や異文化理解を目的に、海外、県内在住外国人宅ホームステイを通じた英語の実践機会を提供する。</p>	<p>小学生派遣数 12 名 中学生派遣数 8 名</p>	<p>○海外ホームステイは新型コロナの影響で実施できず、代替え事業を実施することができた。 小学生の島内ホームステイ 13 名派遣。 中学生本島ホームステイ 6 名派遣。</p> <p>●県内ホームステイ実施初年度で事業内容の周知が不十分で申込者数が少なかった。</p> <p>☆募集要項等を工夫し、周知方法を検討する。</p>	B	B

4. 青少年の健全育成

豊かな心と健全でたくましい青少年を育成する為、学校、家庭、地域社会がその教育機能を発揮し、生活体験・自然体験の機会を多く持つ中で、ボランティア活動の活性化に努めます。また、地域社会が「地域の子どもは、地域で育てる」意識を高め、子どもの教育に多くの大人が関わり、地域の教育力の活性化・高揚を図る諸施策を推進し、地域青少年の個性伸長や協調性涵養のために、青少年の社会参加や体験活動の拡充を図り、文化活動への参加の気運を高めるために地域の芸能・文化活動等の促進を図ってまいります。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
28	久米島現代版組踊	久米島の歴史的遺産を題材に、古典芸能「組踊」をベースに民俗芸能の要素を取り入れたミュージカルの現代版組踊の舞台公演を行い、島の歴史を後世に伝えていく。	公演回数：2回 入場客数：800名 島内イベント出演6回	○小中高生35名のメンバーで毎週1回の自主稽古。及び本島 指導員による本稽古を行うことができた。 ○前年よりも入場制限を緩和し200名定員で昼夜2公演実施することができた。保護者も協力して衣装製作・運営に取り組むことができた。 ●町内イベント等への出演は依頼待ちになっているので、自発的に出演機会を増やすような活動が必要である。 ☆町内のイベントを把握しメンバーと実行委員会・保護者等で出演活動について協議を行う。 ☆舞台の内容に応じた事前学習会等を計画実施する。	B	A
29	久米島町子ども読書まつり	沖縄県子ども本研究会による読み聞かせ会や本の販売、ブックスタート読み聞かせボランティア養成講座受講生によ		○沖縄県子ども本研究会による読み聞かせの実演には多くの親子が参加していた。 ○ブックスタート事業開始に向け「赤ちゃんへの読み聞かせ体験」を実施、14組の家族が赤ちゃんと一緒に絵本の読み聞かせを楽しんだ。	B	A

		る「赤ちゃんへの読み聞かせ体験」を実施した。		<p>●ブックフェアの対象を赤ちゃん～小学生と枠を狭めた。そのことで小学校中学年以上の子どもの姿が少なかった。</p> <p>☆小学校中学年～中高生向けのイベントも別途、企画・実施していく必要がある。</p>		
--	--	------------------------	--	--	--	--

【外部評価委員の意見】

○読書まつり等、図書館ができていようなイベントができています。また、本を使ってイベントを実施することは評価する。各種イベントを行うことにより本に対する興味が増えてきている点に関しては高く評価する。

○久米島現代版組踊は町の財産として残していくべき、高く評価する。継続的に実施してほしい。

5. 社会教育の充実

町民の社会教育活動を支援し、時代のニーズに即した学習活動に対応するため、社会教育指導者、体育指導員の養成・活動を充実させ、多様な学習機会の提供を図ります。また、家庭教育や地域活動を支援し、各関連機関との連携に務め地域の教育力の向上に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
30	久米島 新春書道展	芸術文化である書道を児童生徒及び一般の皆さんが学校教育や生涯学習の一環として書き上げた作品を発表し、さらにお互いが作品を通して学び合いの場とすることを目的とし、久米島町新春書道展を実施。		<p>○児童生徒・一般から約400点の作品が出品され、県知事賞を含む18点が特別賞に選ばれた。また、出品作品を具志川改善センターにて2日間作品を展示することができた。</p> <p>●出品数が減ってきている。一般の部の出品は高校生が多く学生以外の出品数を増やせるような取組が必要である。</p> <p>☆書道展の開催場所や展示日数等について検討を行う。</p>	B	B

31	放課後こども教室	放課後、子どもたちに安全・安心な居場所が提供されるよう、地域の方の参画を得て、学習やスポーツ等の活動の支援を行う。	学校1教室以上開設	○新規1教室を含む9つの教室に対し活動費等の支援を行った。 ●教室の開設内容に偏りが見られる。 ☆町の活動支援の取り組みについて広報を行う。	B	B
----	----------	---	-----------	--	---	---

【外部評価委員の意見】

○新春書道展について、審査方法に検討課題があるが、字を書くことは教育的意義がはっきりしている。なるべく多くの人々が文字文化に触れることができるように支援する必要がある。

○放課後子ども教室について、スポーツをする子どもが少なくなっているため継続して活動できる環境をもうけてほしい。また、活動時間や取り組み方法について統一した活動方針を設ける必要がある。さらに、健全育成を目的として指導者の資質向上等についての研修支援にも取り組んでほしい。

6. 文化の継承・発展

町民が等しく郷土の文化にふれ、文化財に対する理解を深めるとともに、豊かな文化生活の形成に資するために、文化財の保存・活用及び芸術文化の振興を図ります。このため、町の史跡等の復元整備をはじめ、国・県・町指定文化材の環境整備を推進するとともに、建造物、美術工芸品、史跡、名勝、天然記念物等の調査、また無形文化財、民俗文化財の継承者養成に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
32	久米島博物館運営	町の教育、文化活動及び学術研究に寄与するため、調査・収集・保存及び、それら資料を以って特別展、企画展等を開催し、教育文化の向上に資する。	入館者数： 5200人	○R4 入場者数 5269名 ○主催・共催展示会開催（7回） ○講座・講演会等開催（4回） ●入館者数で年間目標は達成したものの、イベントによっては参加者が少ないものがあった。 ☆参加率向上の為、イベント毎にさらなる周知・啓発を図っていく。	A	A

33	収蔵資料の管理・活用	収蔵資料を適切に保存・活用・展示し、町民や観光客に重要性と必要性を広く周知する。		<p>○資料の常設展示や映像展示により、久米島の自然・歴史・民俗について、来館者に適切な情報を提供した。</p> <p>○研究者等へ資料の閲覧や貸出の他、収蔵資料の町史への掲載など、新たな成果が出ている。</p> <p>●開館当初から約 3000 点の資料が収蔵されているが、資料台帳が紙媒体でしかないため、未記載資料の整理も含めデジタル化が必要である。</p> <p>☆目録は、時間を確保し少しずつデータ入力作業、写真撮影を行っていく。</p> <p>☆展示できない大型資料や自然環境の紹介などについては、新技術（VR・3D）の導入により、映像展示が可能になるので、将来的に検討したい。</p>	A	A
34	町史編集	地域文化を育み、郷土に対する関心と愛着をより深めるため、歴史と文化を科学的に解明する町史編集を行う。		<p>○編集委員会を予定通り 2 回開催し各部会を随時、事務局会議を月 1～2 回開催し、「久米島町史別巻 久米島町誕生 20 年のあゆみ」構成内容を決定し編集作業を進め刊行できた。</p> <p>○久米島町史別巻久米島町誕生 20 年の刊行について、広報、ラジオ等で広く PR できた。</p> <p>●コロナウイルス感染拡大防止の影響により、聞き取り協力者からの聞き取り作業が予定より遅れている。</p> <p>☆コロナウイルス感染拡大防止に注意しながら執筆者、また聞き取り協力者と連絡を密にし、連携を図る。</p>	B	B

35	文化財管理	国・県・町指定文化財の保護・活用	文化財指定件数 71件	<p>○仲里間切蔵元跡石牆の補修を完了した。 ○文化財のマツクイムシ対策を行った。 ○具志川城跡は三の郭崩落面の堆積および地形の横断面の作成を完了し、修復案の具体化が進んでいる。 ○宇江城城跡は崩落面西側の城壁の一部を解体した。</p> <p>●文化財の清掃が季節により追いつかない部分がる。 ●城壁内部からモルタルを検出しており、これの除去が課題である。</p> <p>☆夏場の人的支援や一部業務委託を検討する。</p>	B	B
----	-------	------------------	----------------	---	---	---

【外部評価委員の意見】

- 博物館運営について、常設展示や映像展示により情報提供はできているが、久米島文化財の資料について、写真の更新や歌碑の資料を追加するなど内容の見直しを検討してほしい。
- 文化財の維持管理について、関係各課と連携機関と調整を行い、管理体制を整理して見直しを検討してほしい。

7. 教育行政の充実

新しい時代を展望した教育実現のため、社会の変化に柔軟に対応した教育行政を運営する。また、教育委員会がその機能を十分に発揮できるよう、各関係機関との連携を強化し、教育行政の効率的効果的運営に努めます。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
36	学校施設の耐震化	美崎小学校2棟、清水小学校3棟、仲里小学校2棟、久米島小学校2棟の旧耐震施設について、耐震診断調査を行い、調査結果に基づき耐震化を推進する。		<p>○美崎小学校の耐震工事の完了。仲里小学校、久米島小学校の設計業務完了。</p> <p>●工事において、平日は授業があり騒音を出すことが出来ず工事の進捗が遅れてしまう。</p> <p>☆工事の早期発注を行い工期を長めに設定する。</p>	B	B

37	校舎施設等修繕	<p>学校の修繕要望に応じ適宜修繕、工事により不備箇所を改善を図る。</p> <p>気、水、設備等の法定点検及び清掃等を実施し、法令違反の無い施設管理を推進する。</p> <p>施設の安全点検・警備等を実施し、学校運営時間外での安全管理を行う。</p>		<p>○修繕対応等を各学校施設担当者と確認を行い随時進めている。優先順位を整理し、教育環境整備に努めている。</p> <p>●施設の老朽化が進んでおり通常の修繕では対応が厳しい状況である。</p> <p>☆令和5年度から「久米島町公共施設等包括管理業務」にて公共施設等に係る保守管理業務を委託し保守管理の質の向上を図る。</p>	C	C
38	前村幸秀人材育成基金補助金	<p>町内の中学校・高校を卒業した者のうち、所定の要件を満たす学校へ進学した者に対し補助金を交付する。</p>		<p>○49人（令和4年度からの新規13名）へ補助金の交付を行った。</p> <p>●今後の運用について見直しをする必要がある。</p> <p>☆現行制度の見直しや新制度の提案を行う。</p>	B	B

【外部評価委員の意見】

○学校修繕・耐震化について、各学校の要望に応じた修繕対応を行っていることは評価する。また、子どもたちの安全面にかかわるものについては早急に対応できるように継続的に支援してほしい。

8. スポーツの振興

生涯スポーツ、健康体力の基礎となる学校体育の充実、生涯スポーツ社会の実現をめざす為、施設・設備の充実を図り、スポーツの普及振興、健康保持・増進に努めます。また、生涯にわたり健康で心豊かな生活を営むためには、自発的・自主的な運動の日常化や健康生活を実践できる能力の育成が重要であり、地域社会及び関係団体との連携を密にし、支援体制の充実・強化を図ります。

	主要項目	取り組み内容	成果目標・指標	成果と課題及び対応	内部評価	外部評価
39	町民運動会	町民の親睦と体力増進を目的に全町民を対象に実施する。		○1回のみ監督会を実施。各地域の監督から各種要望について意見を聞くことができた。 △新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 ●人口減少に伴い、各地域の選手確保に苦慮している。円滑に実施できるように各地域の代表者との意見交換が必要である。 ☆次年度に各地域代表者にアンケートを実施し、意向調査を行う。	△	△
40	学校施設の開放 (運動場・体育館)	各種体育・スポーツを行っている団体へ学校施設を開放する。	年間利用 300 回	○2 中学校を 9 団体で約 330 回利用、新たな利用団体も加わり社会体育団体の活動支援を行えている。 ●利用団体の種目に偏りがある。 ●各団体で学生利用の扱いに違いがあるので、要綱等の整備が必要である。 ☆幅広い競技で活用できるように周知をおこなう。	A	B
41	B&G 海洋センタープールの開放	B&G プールを開放して、町民の健康づくり、子どもの水のふれあいの場及び学校授業で活用している。	利用者数：4000 人	○感染症対策で利用者数制限を行いながら 103 日稼働。学校利用 1378 名、一般利用 950 名、イベント実施回数 1 回 ●9 月実施予定のイベントが天候不良等によって実施できなかった。 ☆開放期間が決まっているので予備日も設定できるようなイベントの計画を作成する。	B	B

【外部評価委員の意見】

- 町民運動会の実施について、町民の親睦を深める等、本来の趣旨にそった内容で見直しに向けて検討を行ってほしい。
- 学校施設の開放について、学生利用時間等について各団体に周知は行っているが、利用曜日によって違いがあるため情報共有を行い適正利用に努めてほしい。
- B&G海洋センタープールについては、学校での水泳授業での活用以外でも今後の利活用について検討を進めてほしい。

久米島町教育委員会委員名簿

* 令和5年8月1日現在

職 名	氏 名	任 期
教育長	宇江城 詮	令和4年6月1日 ~ 令和6年7月9日
委員（教育長職務代理者）	儀間 啓子	令和2年7月10日 ~ 令和6年7月9日
委員	山城 晶	令和5年7月10日 ~ 令和9年7月9日
委員	大城 秀文	令和4年7月10日 ~ 令和8年7月9日
委員	比嘉 淳	令和3年7月10日 ~ 令和7年7月9日

教育委員会の活動状況について

（ 1 ） 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は原則として毎月10日を基本に定例会を開いています。令和4年度は15回（臨時会、総合教育会議を含む）開催しました。

（ 2 ） 教育委員会会議以外の活動状況

○ 研修会等

沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会・研修会分科会（5月（書面開催））

沖縄県市町村教育委員会研修会（10月） / 市町村教育委員会教育長・教育委員研修会（1月）

那覇地区市町村教育委員会協議会（5月（総会書面）・10月・1月）

○ その他活動状況（各種行事等への出席）

月	行 事 名	月	行 事 名	月	行 事 名
4月	各小中学校入学式		各幼小中学校 運動会	3月	各小中学校卒業式
5月	各幼小中学校 学力向上推進学校訪問	2月	町学力向上推進委員会実践報告会		